



ADRC Highlights

Vol. 21

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

April 2, 2001

▶ 共通コード番号による 防災情報共有化推進

□ <GDIN 2001 で ADRC の提案が採択>



オーストラリアのキャンベラにおいて3月20日から23日までの間、世界中の防災情報関係機関から約250名が参加して、国際災害情報専門家会合(Global Disaster Information Network =GDIN)が開催されました。

この会合は、災害の犠牲者を減らすことを目的として、世界中の防災情報を共有する枠組みを構築するためにアメリカ国務省が提唱したイニシアティブで、今回はオーストラリアの緊急事態管理局(Emergency Management Australia =EMA)が主催しました。今回の会議は4回目の世界会議で、これまでの防災情報共有を推進していくための概念的な必要性の議論から、具体的な今後の方策や組織の運営手法などが議論されました。

アジア防災センター(ADRC)は、これまでアジア地域で防災情報を共有する取組を行ってきた経験から、GDINがまず取り組むべき具体的な方策として、過去の災害、これから起きる災害に世界共通のコード番号を付加し、防災情報の共有化を推進していくこと、2000年8月キャンベラで開かれたアジアパシフィックワーキンググループ会議で提案しました。また、今回の会合までに関係機関との意見調整を行うとともに、共通番号を実際に使った情報共有システムの試験的運用をADRCのウェブサイトにおいて行ってきました。

会合では、3回にわたる説明や分科会での議論を経て、GDINの4つのパイロットプロジェクトの一つとして本提案が参加者全員の合意により採択され、最も実効性の高いプロジェクトとの評価を受けました。そして、今後は、ADRC、国連OCHAのレリーフウェブ、CREDが協力してこのプロジェクトを推進していくこととなりました。これは、全く新しいデータベースを構築するのではなく、既存の世界に散在する情報資源を有機的に結びつけ有効活用するための一種の環境づくりを行うという、非常に合理的でシンプルな内容が参加者の共感を得たものと考えられます。

合意したプロジェクトの内容は、下記のとおりです。

- (1) 過去の災害については、現存するCREDが用いている過去災害に付加されたコード番号を、世界共通のコード番号とする。
- (2) 各情報機関は、各々が有する過去の災害情報にCREDのコード番号を付加する。
- (3) 各情報機関は、必要に応じてCREDのデータを修正する。
- (4) 各情報機関は、そのデータベースを外部から検索可能な形でインターネット上に公開する。
- (5) これから起きる災害については、レリーフウェブが番号を付与のうえ公表し、各機関はその番号を使用する。(CREDはこの番号を追認する。)
- (6) これらを検索できるサーチエンジンを開発し、公開する。

なお会議の最後に、このプロジェクトを提案し、推進してきたアジア防災センターの村田昌彦主任研究員に対し、主催者のEMA

から表彰状が手渡されました。さらに詳しいこのプロジェクトに関する情報については、今後ADRCのホームページでご紹介させていただきます。

▶ ADRC Visiting Researcher Program By Mr. Chulananda Perera



私は21世紀がもう目の前に近づきつつある頃、アジア防災センター(ADRC)にきました。私は滞在中にここで非常に多くのことを学び、言葉で言い表すことは困難です。とりわけ、情報技術や戦略、GISを使った防災対策技術などは、疑いもなく私が仕事をしていく能力を高めてくれたと思います。このことは、防災や減災の技術をより高めていくことを通じて、共通の目標である持続可能な社会経済発展に結びつけていくことにつながるものだと思います。

実際、Visiting Researcherプログラムは、メンバー国における防災対策の基礎的知識と実用のあいだのギャップを埋めるものと考えられます。さらにこのプログラムは、地域におけるより効果的な防災対策を考えていくために、日本のさまざまな分野の研究者、各国の関連機関、国際的な研究者が、ともにそれぞれの専門性を生かして行動していくことを可能にしています。

災害の多い国から来たVisiting Researcherとして、こうした人的交流とともにADRCで情報技術に実際に触れることができ、本心に協力的で、専門的で、やりがいのあり、満足できる研究のためのすばらしい環境を提供していただけたと思います。

最後に、ADRCの防災分野における多大なる貢献と、故郷を離れていることを忘れさせてくれるくらいの支援をしてくれた優しく、知的なスタッフの皆様へ感謝の意を述べたいと思います。

(Visiting Researcher ADRC / Deputy Director, National Disaster Management Center, Ministry of Social Services, Sri Lanka)

▶ アジアにおける最新災害情報 芸予地震、西日本で大きな揺れ

3月24日午後3時28分、西日本の広い範囲で地震が観測されました。震源は広島県沖の安芸灘の地下50km、マグニチュード6.4と推定されています。

地震の規模に比較すると、この地震による被害は大きくなかったものの、死者2名、負傷者254名が広島県やその周辺の地方自治体によって報告されています。また地域全体で、建物30棟が全壊し、20,000棟でなんらかの被害が出ています。また3月30日現在でも60世帯が避難生活を続けています。

(3月30日現在、消防庁報告など)

<お知らせ:アジア防災センターのスタッフ異動>

アジア防災センター開設当初からの主任研究員で、本誌の編集長でもある村田昌彦は、4月1日をもって兵庫県阪神・淡路大震災復興本部総括部復興企画課 阪神淡路大震災メモリアルセンター一整備室に転出となりました。後任は吉村文章です。

ご意見・ご要望等があれば
右記までご連絡ください。

編集・発行: Asian Disaster Reduction Center(アジア防災センター)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 1HDビル3F

E-mail: editor@adrc.or.jp TEL: 078(230)0346 FAX: 078(230)0347

誌代・送料: 無料 / 毎月2回発行(予定)